

平成 20 年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2008-W-06

3. プロジェクト名、研究課題、集會名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文：地震活動の物理・統計モデルと発生予測英文：Physics and Statistical-Based Models of Seismicity and Earthquake Forecasts4. 研究代表者所属・氏名 島崎 邦彦(地震研究所担当教員名) 平田直, 鶴岡弘

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
島崎邦彦	東京大学・教授	研究代表者	H20.7.17-18	2	無
平田直	東京大学・教授	所内担当教員	H20.7.17-18	2	無
鶴岡弘	東京大学・助教	所内担当教員	H20.7.17-18	2	無
石辺岳男	東京大学・研究員	研究集会参加	H20.7.17-18	2	無
尾形良彦	統計数理研究所・教授	研究集会参加	H20.7.17-18	2	無
岩田貴樹	早稲田大学・助教	研究集会参加	H20.7.17-18	2	無
前田憲二	気象研究所・室長	研究集会参加	H20.7.17-18	2	無
遠田晋治	産業総合研究所・チーム長	研究集会参加	H20.7.17-18	2	無
片尾浩	京都大学防災研究所・准教授	研究集会参加	H20.7.17-18	2	有
松浦 律子	地震予知総合研究振興会	研究集会参加	H20.7.17-18	2	無
勝俣啓	東京大学・准教授	研究集会参加	H20.7.17-18	2	無
五十嵐 俊博	東京大学・助教	研究集会参加	H20.7.17-18	2	無
冨澤祐樹	東京学芸大	研究集会参加	H20.7.17-18	2	無
長尾年恭	東海大・	研究集会参加	H20.7.17-18	2	有
野口伸一	防災科研・総括主任研究員	研究集会参加	H20.7.17-18	2	無
松本拓己	防災科研・研究員	研究集会参加	H20.7.17-18	2	無
松原 誠	防災科研・研究員	研究集会参加	H20.7.17-18	2	無
井元政二郎	防災科研・総括主任研究員	研究集会参加	H20.7.17-18	2	無
岡田正実	気象研究所・客員研究員	研究集会参加	H20.7.17-18	2	有

David Vere-Jones	Victoria University of Wellington	研究集会参加	H20.7.17-18	2	無
Danijel Schorlemmer	USC	研究集会参加	H20.7.17-18	2	無
楠城一嘉	ETH・上級研究員	研究集会参加	H20.7.17-18	2	無

6. 研究内容（コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入）

キーワード：地震活動，物理モデル，統計モデル，地震発生予測，検証

地震発生に至る地殻の物理的素過程が明らかになったとしても，来るべき地震の時期，場所や大きさが決定論的に予測できるようになることは考えづらい。これは，地震を含む破壊現象には非線形的な要素が少なからず含まれていると考えられるからである。地震発生予測の進展のためには，統計モデルや物理モデルに基づく地震活動予測アルゴリズムを時空間的に高分解能かつ高精度化する必要がある。また，それらのアルゴリズムの妥当性を評価・検証する仕組みの構築が必要である。本研究集会は2009年度から開始される地震予知・噴火予知研究計画の「地震活動評価に基づく地震発生予測」の研究課題に向けて，地震活動やその他の観測に基づき地震発生の予測をテーマとする研究者が，本研究集会において一同に会し，情報交換を通じて個々の研究成果に対する認識の共有を図り，地震予測モデルの高度化および地震予測モデルやそれ以外の地震発生予測に関する情報を適切な形で発信するための課題を明らかにし，地震発生予測に向けた知見の集約に関する議論を深めた。

7. 研究実績報告（公表された成果のリスト*1または2000～3000字の報告書）

(*1論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

<http://www.eic.eri.u-tokyo.ac.jp/viewdoc/ZISINyosoku/july2008.html>

において，(研究集会) プロシーディングスを公開（謝辞に記載あり，ポイント5）

また，研究集会の参加者は7/17：41名，7/18：29名